

第2章 しながわ観光の特徴と課題

2-1 しながわの観光的特徴

品川区には、東京タワーや東京スカイツリーのように、それだけで強力な集客力をもつ観光資源は存在しません。しかし、まちを歩けば、幕末から明治にかけての歴史を感じられるスポットや自然豊かな水辺・公園、個性的な商店街など、しながわでしか出会うことのできない多様で魅力的な観光資源が点在しています。このようなまちの歴史や生活の営みに根ざした地域の資源は、そこに生活する区民にとってはありふれたものかもしれませんが、その見せ方や伝え方の工夫次第で、外から訪れる人にとってとても魅力的なものになります。この点で、しながわのまちは、まちを歩きながら、まちの歴史や生活、まち自体を楽しむ、都市型観光に大変適しているといえます。

また、以上のような地域の資源の他にも、区外にも比較的知名度が高く、区を象徴するような資源として、しながわ水族館や大井競馬場などの施設が挙げられ、品川区における都市型観光では、これらの施設をうまく活用していくことも重要になります。

◆発達した交通ネットワークと恵まれた立地

しながわのまちは、江戸時代より旧東海道の第一の宿場、交通、交易の要所として栄えてきた場所です。交通の便の良い恵まれた立地であったからこそ、現在も寺社仏閣や歴史資源が多く残り、かつてのまちの営みを感じることができます。



東海道五拾三次に描かれた品川宿

交通の便の良さは、現在のまちにも共通した特徴であり、羽田空港、品川駅など都内有数の交通ターミナルに隣接した東京の玄関口としての特徴を有しています。特に近年は、羽田空港や品川駅を利用するビジネス客の区内宿泊が多い傾向がみられるほか、品川を拠点として各地を旅行する外国人観光客がみられることから、今後、滞在や観光のハブとしての機能が期待されます。

また、他にも、JR線、東京モノレール、東急大井町線、東急池上線、京浜急行線、都営浅草線など、様々な鉄道による発達した鉄道ネットワークによる交通の便の良さも品川区ならではの特徴です。これらの路線により、沿線の多くの地域とつながっていることで、短時間の気軽な観光から長期の滞在型の観光まで、様々なスタイルの観光を楽しんでもらうことができます。

◆点在する歴史資源

江戸時代に東海道の第一宿として栄えた旧東海道品川宿をはじめ、東海七福神をまつる寺社仏閣、各地域で行われている祭礼・行事、幕末から明治にかけて活躍した偉人の墓など、品川区には多様な時代の歴史資源が存在します。特に、旧東海道品川宿や各地域の祭礼は、日本人だけでなく外国人からも人気が高く、まち歩きに訪れる人は後をたちません。ほかにも、土佐藩の浜川砲台跡や板垣退助の墓など、明治維新関連の資源が充実しているほか、品川歴史館での常設展、企画展では、原始・古代から現代にいたるまでの品川の歴史を学ぶことができます。



品川神社



南の天王祭(かっぱ祭)

また、古くからその技術が受け継がれてきた伝統工芸・ものづくりの技術も品川の歴史を感じることができるもののひとつです。区内には、表具や桐箆笥、金網細工などの伝統工芸の職人がいるほか、ものづくりのまちとして栄えた大崎地区には、金属、機械、化学関連の町工場も集積しています。



伝統の技と味しながわ展

◆水辺環境をはじめとする豊かな自然

都内では、水面を有する区が少なく、水辺にふれ合える場所も限られていますが、品川区内には、目黒川、品川浦、京浜運河、天王洲アイルなど、季節や時間によってその表情をかえる多様で豊かな水辺が存在します。これらの水辺では、季節ごとにクルーズや屋形船による周遊が楽しめるほか、シーカヤックやEボートなどのアクティビティを楽しむこともできます。

また、水辺だけでなく、四季を感じられ、スポーツや身近なレクリエーションの拠点となっている公園・庭園が多く存在することも品川区の魅力です。豊かな緑を体験できる「都立林試の森公園」をはじめ、「戸越公園」や「ねむの木の庭」、「池田山公園」、「東品川海上公園」、「しながわ区民公園」など多くの公園が存在します。



品川浦の風景



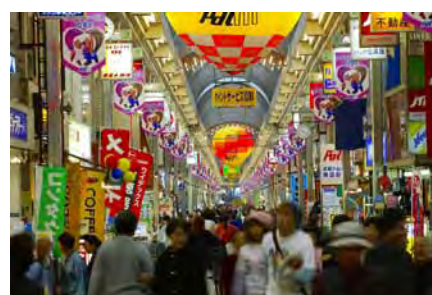
しながわ花海道

◆都内随一の元気な商店街

都内随一の元気な商店街が多数集まることもしながわならではの魅力です。「戸越銀座商店街」、「武蔵小山商店街」、「荏原町商店街」、「中延商店街」など、都内では珍しくなってしまった地域の生活に根ざした個性豊かな商店街が多数存在します。これらの商店街では、地域の台所として毎日のように地域住民でにぎわうほか、全国から観光客が訪れる商店街もあります。また、平成18年からはじまった「つまみ食いウォーク」では、毎回3,000人以上の参加者が集まるなど、観光資源としても活用されています。ほかにも、バルイベントやまちゼミなど、各商店街独自の取組みも活発に行われています。



戸越銀座商店街



武蔵小山商店街

◆各地域で行われている文化芸術・スポーツ

また、近年は文化芸術・スポーツに関するイベントなどの取組みも盛んで、しながわの特徴の一つとなっています。平成22年度から毎年開催されている区民芸術祭は、区内の美術館や文化施設などと連携して、区内を拠点に活動するイラストレーターや造形作家、劇団、ダンサー、演出家など様々なジャンルのアーティストの作品を紹介する展示やコンサート、舞台などの様々なイベントを区内各地で開催しています。

また、区民スポーツ大会、しながわマラソン大会などのスポーツイベントも積極的に行われており、しながわを代表するイベントの一つとなっています。他に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催が決定してからは、区内開催競技であるブラインドサッカーやホッケー、ビーチバレーボールのフェスタを開催し、区民に周知するとともに、区民意識の醸成につとめています。



品川区民芸術祭



ブラインドサッカー出前体験教室

2-2 しながわ観光を巡る社会情勢の変化

前計画「品川区都市型観光アクションプラン」策定時から、この10年間でしながわ観光をとりまく社会情勢は大きく変化しました。また、外的な社会情勢の変化に加えて、今後、品川区内でも様々なイベント・整備などが予定されており、品川区を区内外にアピールしていく好機にめぐまれます。主に品川区周辺での変化、品川区内での変化について、それぞれ以下にまとめます。

◆外部環境の変化

品川区周辺で起きている変化について、インパクトの大きいものに「羽田空港の国際化」があります。平成22年に羽田空港国際線ターミナルが開業し、それに伴って訪日外国人観光客の数も増加しました。羽田空港に近接している品川区においても、外国人観光客が訪れる機会は増加しているといえます。



羽田空港国際線ターミナル

また、2018年（平成30年）には「明治維新150周年」を控えており、板垣退助の墓や坂本龍馬像など、明治維新に関わる歴史資源を多く有する品川区にも、多くの人を訪れることが期待されます。

そして、2020年（平成32年）には「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会」が予定されており、区内で3つの競技大会が予定されている品川区にも多くの人を訪れることが



坂本龍馬像

予想されます。

オリンピック・パラリンピックの前年の2019年には、プレオリンピックの多くのイベントや、日本全国でラグビーのワールドカップの開催が予定されており、品川区にも観光客が訪れる可能性があります。

さらに、2027年には「リニア中央新幹線の品川駅開業」が予定されています。品川駅に近接している品川区においても、広域ネットワーク拠点としての役割が期待されます。

◆内部環境の変化

区内の特筆すべき変化としては「ビジネス需要の高まり」が挙げられます。旧来からものづくりのまちとして発展してきた大崎駅周辺の再開発や品川駅や大井町駅周辺にビジネスホテルが多く立地していることにより、品川区におけるビジネス需要が高まっています。

また、平成27年に大崎駅西口に「大崎バスターミナル」が開業しました。これは、大崎駅と地方都市を結ぶ高速バスのターミナルとして整備されたものであり、今後、大崎駅が拠点となり、周辺に新たな人の流れができることが期待されます。



大崎バスターミナル開業式典の様子

さらに、2019年（平成31年）には「五反田リバーステーションの整備」が予定されています。これは、舟運や水辺のにぎわい拠点として整備され、区内における舟運移動だけでなく、都内各地における舟運事業との連携も期待されます。

しながわ観光を巡る社会情勢の変化

年	これまでの出来事・これからの出来事
平成18年（2006年）	品川区都市型観光アクションプラン 策定
平成22年（2010年）	羽田空港 国際線ターミナル 開業
平成27年（2015年）	大崎バスターミナル オープン
平成30年（2018年）	明治維新 150周年
平成31年（2019年）	プレオリンピック関連イベント、第9回ラグビーワールドカップ、五反田リバーステーション オープン（予定）
平成32年（2020年）	オリンピック・パラリンピック東京大会
平成39年（2027年）	リニア中央新幹線 品川駅 開業（予定）
…	

2-3 今後のしながわ観光の課題

先に述べたように、品川区内には単独で強力な集客力をもつ資源は存在しませんが、地域の歴史や自然や暮らしが感じられる小さな資源がたくさん点在しており、それこそがしながわ観光の魅力といえます。また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会をはじめとして、今後予定される様々なイベントなどにより、品川区を区内外にアピールしていく好機にめぐまれます。

以上のような、しながわの観光的特徴（ポテンシャル）としながわ観光をめぐる社会情勢の変化（機会）をふまえて、今後のしながわ観光の課題を以下にまとめます。

（1） しながわにおける観光とは

品川区では、この10年間、前計画「品川区都市型観光アクションプラン」に基づいて、地域のなかにある色とりどりの魅力をテーマ性のもとに横断的に束ねて、効果的にアピールすることによって、多くの人で賑わい、交流の歓びがあふれる「都市型観光」を推進し、成果を積み重ねてきました。今後のしながわ観光においても、これまでの「都市型観光」の精神を受け継ぎつつ、社会情勢の変化に適切に対応し、さらに発展させていくことが基本となります。

また、しながわ観光においては、観光関係者だけでなく、区民自身が普段は来訪者の目に触れることが少ない区内の魅力をていねいに拾い出し、磨きをかけていくことが重要です。さらに、区民だけでなく日常的に区内の魅力に触れている区内在勤・在学者の参加も重要となります。このため、官民が連携し、それぞれの役割でしながわ観光を推進していくことを目指します。

（2） 今後の課題

今後、より一層の観光振興を図る上で、品川区全体で取り組んでいく必要がある課題は、以下の9つになります。

- 水辺環境を活かした観光の充実
- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた国際観光、スポーツ観光の強化
- まち歩き観光の更なる充実
- 観光に関わる様々な連携強化
- 魅力を楽しむための拠点の整備・充実
- しながわ観光の知名度向上に向けたプロモーションの強化
- 区民による“もてなし力”の向上
- 区民観光の推進
- 社会情勢の変化への対応

◆水辺環境を活かした観光の充実

品川区では、目黒川や天王洲アイランド、勝島運河等の多様な水辺環境や水辺での活動が代表的な資源の一つとなっていますが、区内外の知名度などからみて、それらの資源が十分に観光に活かしきれているとは言えない状況です。今後、水辺環境を活かした観光の充実を図っていくためには、水辺利用のための環境整備や活動団体間の連携が課題といえます。

◆2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた国際観光、スポーツ観光の強化

多くの人々が品川区を訪れる好機となる2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けては、Before五輪、After五輪を見据えた取組みが重要となります。特に、After五輪については、五輪レガシーを活用したスポーツ観光、文化芸術観光に取り組んでいくことが必要となります。

◆まち歩き観光の更なる充実

この10年間、様々なかたちで積み上げてきたまち歩き観光の取組みについては、テーマやルートを充実させ、さらに発展させていくことが重要です。そのためには、観光案内標識等の整備や、ボランティアガイドなどの人材育成も課題となります。

◆観光に関わる様々な連携強化

先にも述べたように、都市型観光は、観光関係者で取り組むだけでは成り立ちません。それぞれの主体が『品川都市型観光』の理念を理解し、それぞれの立場で観光に関わっていくことが必要です。そのためには、区内観光事業者、区内交通事業者、区内団体、周辺自治体、東京都等、様々な関係者との連携強化を図ることも課題といえます。

◆魅力を楽しむための拠点の整備・充実

先述したように、品川区では、これまでも「品川宿交流館」や「しながわ PLAZA」など情報交流拠点を整備してきました。しかし、今後、まち歩き観光をさらに充実させていくにあたっては、区内の要所にしながわの魅力をもっとPRする観光案内所等の情報発信拠点を整備・充実していくことが必要となります。

◆しながわ観光の知名度向上に向けたプロモーションの強化

品川区では、この10年間、区内の資源の磨き上げに取り組んできましたが、外の人からみた品川区に対する観光の知名度は、まだ高いとはいえません。今後は、これまでの取組みを底上げしていくよう、しながわ観光の知名度向上に向けたプロモーション強化を図ることが課題であるといえます。

◆区民による“もてなし力”の向上

しながわ観光においては、区民と来訪者の交流も重要な要素です。区民のちょっとしたおもてなしが来訪者に満足感を与え、再来訪を促すことにつながります。また区民自身が来訪者を迎え、もてなすことは、自分たちが住んでいる地域を振り返り、見つめ直すきっかけにもなるものです。今後のしながわ観光においては、区民自らが地域への理解を深め、来訪者をお迎えし、おもてなしできるようになることが重要です。

◆区民観光の推進

しながわ観光においては、区民自身が品川区を楽しみ、魅力を再認識し、その魅力を発信していくという、区民観光の推進が不可欠です。具体的には、区民自らが区内の観光資源を巡ったり、イベントに参加したりすることで、自らの地域への理解や愛着を深めるとともに、区内の様々な魅力を口コミなどで発信していくことが重要です。

◆社会情勢の変化への対応

先にも述べたように、近年の品川区周辺の変化として、外国人観光客の増加やビジネス需要の高まりが挙げられます。これらの社会情勢の変化に対応して、受入れ体制の強化やサービスの提供など、品川区全体で一丸となった体制の整備が課題となります。

また、全国的に活動の高まりを見せている水辺利用についても、他地域の事例などを参考にしながら、近隣区と連携し、引き続き取り組んでいくことが必要となります。